

令和3年度
鹿児島市生涯スポーツ研究公開



『コロナと向き合う』

期 日	令和4年2月6日（日）
会 場	鹿児島市郡山体育館
主 催	鹿児島市スポーツ推進委員協議会 鹿児島市スポーツ少年団
後 援	伊敷ブロックスポーツ推進委員協議会 伊敷ブロックスポーツ少年団連絡協議会

目 次

1.	『立ち向かう』鹿児島ユナイテッド	01
2.	『鹿児島をみんなで応援』鹿児島レブナイズ	05
3.	『コロナ禍での活動について』花野スポーツクラブ	08
4.	『コロナ禍で学んだこと』 スポーツ少年団	16
5.	『コロナ禍で学んだこと』 地域スポーツ活動	19
6.	『コロナ禍での運動会』 犬迫小学校・小山田小学校	22
7.	『イベント開催判断フロー』伊敷校区コミュニティ協議会	26
8.	『ニュースポーツと感染対策』（3地区スポーツ推進委員会）	27
9.	『感染推移の記録』（伊敷台小学校）	30
10.	『スポーツ基本法をご存じですか』（伊敷ブロックスポーツ推進委員会）	32

『立ち向かう』

2021年12月18日
鹿児島ユナイテッドFC
運営部 部長
湯脇 健一郎



鹿児島ユナイテッドFC
KAGOSHIMA UNITED FC

『鹿児島ユナイテッドFC』

2013年 九州リーグで『FC鹿児島』と『ヴォルカ鹿児島』統合
2014年 JFL 日本フットボールリーグ(Jリーグ)参戦
2021年 8シーズン目を終了

成績 7位(J3リーグ)

実績 ○2019年のシーズンにJ2リーグに参戦

○2021年今シーズンは過去最多の入場者数を記録

【ホームタウン活動】

- ☆ 2021年10月 喜入にサッカー練習場が完成
(天然芝と人工芝生の使い分け可)
- ☆ 喜入地域を盛り上げる。
 - ・交流人口を増やす(少子高齢化をサポート)
 - ・空き家対策、(古民家再生協会とリノベーション)
 - ・耕作放棄地利用

実は7位は、過去8シーズンで一番よくない成績でしたにもかかわらず、多くのお客さんが足を運んでくださったということは、活動が少しずつ地域に根ざしてきているのを感じたシーズンでもありました。(湯脇)

子どもたちを育てるのにすごくいい環境だよねと提供いただけるような取り組みをしています。(湯脇)

--*-*-*-*-*-*-*-*-*-*

宮原 :『鹿児島ユナイテッドFC』はどんなチームですか。

湯脇さん:我々の企業理念は、『スポーツ(サッカー)を通じて地域に貢献し、鹿児島に関わる全ての人の「喜び」と「元気」を創造すること』です。我々がプロサッカーチームとしてJリーグの公式戦を鹿児島で開催することによって、相手チームを応援される熱々なサポーターが鹿児島に来られます。とういことは交流人口が増えることに繋がるという訳です。

県外の方が、観光地鹿児島に来られるきっかけが、自分の応援するチームの試合を観戦することであって、実際に鹿児島に来られたら気に入ってもらえる自信はあります。食べ物はいまいし、桜島もあるし、1回来てもらえると、「次は家族で来ようかな」とか、「もう1泊して指宿に行こうか」などと思って頂けると嬉しいです。そのきっかけを作りたいと思っています。

サッカーでJ1、J2を目指すことはもちろんですが、試合の勝敗だけではなくて、Jリーグの試合はあくまでも手段であり、少子高齢化で人口が少なくなる中、地元を盛り上げるために少しでも交流人口を増やして行きたいという想いがあります。その交流人口を増やし、愛する鹿児島を盛り上げるためにもJ3よりJ2、J2よりJ1と上位カテゴリーを目指す。そう思っています。

宮原 :『交流人口』ですか！凄いキーワードが出てきましたね！



J2リーグの時、元J1チームの新潟さんとも対戦しました。その時は白波スタジアムに新潟のサポーターが約800人来られました。新潟から鹿児島に800人も来られるイベントって他にないと思います。また、過去には浦和レッズのサポーター4,000人が当時J1の大分と試合した際、大分のスタジアムに来られたという実績も有ります。(湯脇)



湯脇さん：鹿児島に一度来てもらえば必ず好きになってもらえると思います。大好きな鹿児島を盛り上げて行きたいという想いを、うちのスタッフ全員持っているし、県や市などの行政の方々ももちろん持たれています。プロバスケットチームの鹿児島レブナイズさんもそうですが、これが我々プロスポーツの存在価値だと思います。



--*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*

【感染対策】

- 観客席は一席ごとに間を空けて座ってもらう。
- 入場口で必ず検温・消毒をする。
- 『Jリーグ 新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン』
(12月14日更新 96頁にわたります)
プロトコル1:感染予防と、感染への対処
プロトコル2:情報開示
プロトコル3:活動段階と、定期検査
プロトコル4:トレーニング
プロトコル5:チームの移動、宿泊
プロトコル6:無観客試合の開催
プロトコル7:制限付試合の開催
(ホームページ参照)
- Jリーグは各クラブに衛生担当を設置
ロッカールーム消毒・ボール消毒・ゴールポスト消毒
ボールボーイの手袋着用 etc.
- ガイドラインに準じ人員や費用を増加。(県や市の補助金も利用)

●感染対策で困った事

飲食時にマスクを外しますが、「マスクしてないよ」などの苦情があったこと。

【対応】一緒に感染対策をして行きましょうという雰囲気はどう作っていくかが大事

--*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*

湯脇さん：Jリーグでは「いかに試合を開催するか」、Jリーグ全57クラブの主管試合で「感染者を出さないためにはどうすればいいのか」を本当に細かい打ち合わせを行い、一昨年から昨年にかけてプロ野球と一緒に協議されてきました。コロナ禍の状況で、今シーズン試合が開催できたことは細かいルールを作ってくれたリーグ関係者のおかげであると思っていますし、それを守ってくださったファン・サポーターの皆様のおかげであります。

宮原：メディア等で見ると細かい計画が立てられて、それを一つ一つ実施することでコロナ対策ができています。

一席空けるというルールは白波スタジアムの場合でいうと約12,000席あるので6000席、さらにその中で相手チームのサポーターさんのエリアとしては800席の中の400席がマックスの状況でした。感染者を1人も出さなかったのは、このような形でのコロナ対策の賜物だと思っています。(湯脇)



コロナ禍の中、今年はJ3リーグで1番の来場者数でした。延べ52,000人の中で感染者が出なかったのはお客さん自身のしっかりとした感染対策のおかげだと感謝しています。(湯脇)

ユナイテッドさんが全ての面においてコロナに負けることなく、立ち向かう強い姿勢で戦ってきたことがとても良くわかりました。(新名主)



湯脇さん:手指消毒を徹底してのマスク着用が当たり前になって、うがい手洗いをまめにするようになったことで、風邪をひく人たちが少なくなったし、インフルエンザにかかる人も少なくなりました。何かのリスクをプラスにポジティブに捉えることで少しずつ我々も進化していると思います。

宮原 :コロナ前の状態に戻ることは無いのでしょうか？

湯脇さん:まったく元に戻ることはないと思います。また、そこに戻ることが果たしていいことなのかという議論もあって、「今この状況が実はこれまでの行いが高じたあるべき姿なのかもしれない。これを乗り越えたら、新たな最高の未来が待っている」という風に思えると立ち向かっていけるのです。

宮原 :「立ち向かう」、力強い言葉ですね。

湯脇さん:僕はプロのサッカークラブですけど、ここから発信できることって本当にたくさんあって、発信できないものは無いと思っています。

スポーツに限らず、音楽や色々な芸術なども豊かな生活を送るためのきっかけになるのではないのでしょうか。

スポーツは「勝ち」と「負け」があります。鹿児島は勝って祝杯、負けても反省会で呑むといった焼酎文化があります。そういった勝敗に関わらず、試合を通して「いい試合してくれたから、明日からまた頑張れる」「負けたけど次こそ！」という活力になります。僕は毎回そうです。もちろん、勝った時の方が喜びは倍増になりますけど。

最初は大人しかたお客様も、試合が進むにつれて盛り上がってくるとスタンドが一つになるのですよ。今はコロナ禍で声を出せないので手拍子が一つになる会場の雰囲気はたまらない感じがあります。やっていて良かったと思えます。スタジアムに来てもらえればみなさんに感じていただける自信はあります。

宮原 :今年も緊急事態宣言の中でオリンピックがありました。

試合が終わると涙を流しながら「開催して下さりありがとうございました」というメダリスト達のコメントをたくさん聞きましたが、感動や勇気もらって、お礼を言いたいのは我々の方で、選手のためだけでなく、コロナ禍で苦しむ世界中の人にエールを送った、歴史に残る TOKYO 大会になったと思いました。

湯脇さん:我々の活動は、今日やって明日すぐに形になるものではなくて、やり続けていくことがすごく重要で、そういうことも伝えていきたいです。

5年後なのか10年後なのか、そこに結果を出すためには、今日やらないとダメなのです。

今日やらないと5年後は無い、今やらないと10年後に繋がらないのです。だから今やってることを信じてコツコツとやり続けるしかないんです。



日本サッカー協会の理念にも『豊かな生活文化の向上』というのがあります。(湯脇)

Jリーグの100年構想のホームページに書いてありますが、まさしく「熱狂と興奮が渦巻き感動を呼び起こす」ことができます。(湯脇)

活動を通じていろんなことにチャレンジしています。スポーツで鹿児島を盛り上げるために、バスケットのレブナイズさんとも競技の垣根を超えて、お互いに情報交換をさせて頂いています。(湯脇)



ユニテッドさんの地元を愛するあたたかい気持ち、故郷鹿児島のために色々な形で貢献してくださっていることがわかりました。心から感謝いたします。(新名主)

宮原 :ここがメッセージのポイントになりそうですね。

湯脇さん:僕は、「失敗」って無いと思っています。途中でやめるから失敗するのであって、成功するまでやり続ければ失敗って無いんですね。
だから、やっぱり続けることはすごく大事なかなと思っています。

宮原 :コロナがなければこうしてスポーツの役割とか確認する機会もなかったでしょうね。

湯脇さん:逆にいろんな事を確認できたのかもしれない。
コロナ禍のような大きな困難を乗り越えるために、知恵を出し合って、みんなで取り組んで、それを乗り越えてそれがまた大きな喜びになって、前に進んでいけるのかなと思います。

湯脇さん:「こんな時にサッカーしている場合じゃない」と思う方もいらっしゃると思います。苦勞されている方を僕もいっぱい見えていますし、「だからこそもう一度這い上がるんだ」というメッセージになれば良いと思います。

湯脇さん:「100%を目指す、100%の確約は無い、感染者が出たときの対応をしっかりとる」この考え方でやった結果、感染者が出なかったのだと思います。

湯脇さん:コロナ禍2年の経験でお客さんにも理解してもらえる様になりました。これからも地域の保健所とか自治体との連携・コミュニケーションを大事にしながら、油断することなく、日頃から感染対策の準備と対応をしっかりしていきたいと思っています。

--*-*-*-*-*-*-*-*-*



ユナイテッドさんの鹿児島を盛り上げていきたいという熱い想いに感激し、色々な可能性を見出せるスポーツの素晴らしさを教えて頂きました。(中間)



『鹿児島をみんなで応援』

2021年12月14日

鹿児島レブナイズ

運営

峰 祐輝



『鹿児島レブナイズ』

母体は「鹿児島教員クラブ」

2008年 日本バスケットボールリーグ2部(JBL2)に参戦
チーム名を「レノヴァ鹿児島」とした

2016年 Bリーグが発足
チーム名を「鹿児島レブナイズ」と改称
(レブナイズとして6シーズン目)

成績 3位(B3リーグ)

【チーム名の由来】

Bリーグが発足した2016年、RENOVAの流れを継承するという意味で頭文字のREを、後のBNISEは「よかにせ・ぶにせ」の「ブニセ」から取り、二つをもじって REBNISE(レブナイズ)という名前で活動しています。

【チーム構成】

選手が14人
ヘッドコーチ、アシスタントコーチ
トレーナー2名、マネージャー2名の計20名
(フロントスタッフ他 10名)

【活動内容】(シーズンは10月頃～5月上旬頃)

☆活動サイクルは、主に週4日練習をして土日試合

☆活動場所は、鹿児島市内の体育館、他遠征先
(西原商会アリーナがホームアリーナ)

【感染対策】

- 観戦の時は一席ごとに間を空けて座ってもらう。
- 入場口で必ず検温・消毒をします。
- 飲食の制限はかなり厳しく行っています
(マスクを外す時間が最小限になるように努めました。)
- 場内換気・・・Bリーグでは1時間に1回、10分の程度の換気します。
競技に影響のないドア数か所を常時開放。
- 遠征(県外移動)中は外食禁止(弁当やデリバリーで対応)
- 応援は声出し禁止
最近、声出しが基準化され、継続的に声を出す行為がダメとなりました。(これはお客さんにも分かりやすいようです。)
- ×応援歌を歌う
- ×「ゴー・ゴー・レブナイズ」「ディーフェンス・ディーフェンス」
- ◎「おっ! あっ!」など、瞬間に出る声
- 『整理退場』(試合後、観戦席のブロック毎の退場)

●感染対策で困った事

消毒ポイントの効果的な配置に試行錯誤しました。
記録員席の周辺は人が集まりやすい。
『整理退場』を思うようにお客さんに伝えられない。

峰さん:(私は)もともと違う仕事をしていたのですが、その仕事の転勤で鹿児島に来ました。その時に飲み屋さんでレブナイズの関係者の方と意気投合し今の仕事に転職しました。

BリーグはB1・B2・B3に分かれています。一時期B2に所属していました。
昨年B2のライセンス(会社として経営を続ける力)も取得できました。今の成績を維持しB2昇格を目指します。

あの薩摩兵児謡(さつまへこうた)『おどま薩州』の♪薩摩のぶにせ♪・・・横ばいのこじっくい♪♪「ひたむきに努力して地味けどどしっか勝ちチームを目指す」というような意味が込められています。(峰)

基本的なコロナ対策は皆さんもなさっていると思います
屋外スタジアムと違って密閉された屋内ですので「万が一ウイルスが館内に入り込んだら・・・」ここはかなり気を付けております。(峰)



静岡遠征の時のこと、静岡っておいしいものいっぱいありますけど、食べたのはファミリーマートの焼きそばでした。選手たちも行った先ではテイクアウトやデリバリーを使って部屋で食事を取るようにしています。(峰)

今では『整理退場』を認知してくださり広まりつつありますが最初の頃は苦労しました。
コロナ禍の中、来場される皆さんの意識が高くその辺は感謝しております。(峰)

【ホームタウン活動】

☆『ふれあいバスケット』(感染防止のため休止中です。)

日時:月に1回

場所:西原商会アリーナ

前半:(約一時間)選手と一緒にバスケットをします。

後半:選手のみで『公開練習』をします。

※多いときは120人くらいでした。

☆『公開練習』

日時:月に1回

場所:西原商会アリーナ

※50~60人見に来てくださいます。

(サブアリーナの2階ランニングコースから見てもらっています)



県外遠征に行く選手から、『ふれあいバスケット』に来てくれた子ども達への感染リスクを避けるために、現在は『公開練習』だけを行っております。(峰)

今はまだお客さんたちと一緒に楽しむというところまではできていませんが、レブナイズを見てもらいイベントを継続し活動していきたいと思っています。コロナ禍ですので内容は変わりますが、ホームアリーナである西原商会アリーナさんで実施可能なポッチャやその他ニュースポーツで遊んだり、配信で紅白戦やクイズ大会等を実施したり、その時の状況により工夫しています。(峰)

-

宮原:コロナ禍で心に残ったシーンや、気付かれたことはないでしょうか?

峰さん:昨シーズンはコロナ禍で開幕が大幅にずれ込み、チームによってはリモートゲームになるなど、いろいろな制限の中で始まった開幕戦当日、我々も「来てくださってありがとう」と言う思いでしたが、サポーターの方々からも「よかったね」「ありがとう」という言葉をかけてくださいました。

幸いなことに、昨シーズンは一人の感染者も出さずに無事終了できました。お客様から「本当によかったね」という言葉や、「サポーターとしても感染対策をしっかりやって応援したいんだよね」という声も頂きました。

これは個人的な思いでもありますが、プロのスポーツチームはホームタウンを持っていますが、神奈川や静岡の試合に、鹿児島出身で東京在住の方が見に来て下さいます。縁のある鹿児島のチームを懸命に応援する何かしらのアイデンティティーでつながり、そういう一体感はプロスポーツの魅力であり、存在意義なのだと思います。見ている人にもエネルギーを与えるのかなと思います。

コロナ禍の今だからこそ、レブナイズのバスケットをはじめとしたスポーツの力で、地域を盛り上げていきたいというお話をお伺いして、改めてスポーツの力や素晴らしさを感じることができました。(田中)



私は神奈川の出身ですが、鳥栖のスタジアムに横浜Fマリノスが来た時には、ユニフォームを着て応援に行きます。プロスポーツがコロナ禍であっても活動を続け、その地域の人たちにエネルギーを与えているのはすごく意味のあることだなと思います。(峰)

宮原:我々スポーツ推進委員は、大会の準備や支援だけではなく、観戦を進めることも積極的に取り組まなければなりませんね。

峰さん:西原商会アリーナさんが「見るスポーツ・するスポーツ・支えるスポーツ」というのを掲げていらっしゃるんですが、我々の『ふれあいバスケット』もそこから始まった事業で、「見る」は公開練習で「する」はバスケットでのふれあい、「支える」は場所を提供することです。特にプロスポーツはその三要素が必要かと思います。

宮原:今回の研究公開でそういうことが伝わると良いのですが。



峰さん:鹿児島は60万人規模の都市でプロスポーツが成り立たないはずがないですし、プロスポーツクラブを地元の人みんなで応援することはとても健全できれいで楽しいものだと思います。

以前、ユナイテッドさんの企画で焼酎の振る舞い酒があり私も参加させて頂き、すごく楽しく過ごしました。このように地元をみんなで応援するとはすごく健全で素敵なことだと思います。その意味でもこのプロスポーツという火は途絶えさせてはいけないと思います。

鹿児島県でも、いろんなプロチームが立ち上がってきていて、スポーツを通じて地域をどんどん盛り上げて行こうという勢いがむしろ出てきていると感じます。

宮原:コロナ禍の中でもそのような動きがあるということは、生活環境が大きく変化する中でも、大切な何かをスポーツに求めているということでしょうか。

峰さん:それもあると思いますが、やはり近年スポーツは生活に浸透してきています。元々はプロ野球と大相撲しかありませんでしたが、1993年にJリーグができ、2016年にBリーグができました。その間、バレーボールやラグビーもプロ化しようという流れがある中で、今スポーツが見直されている時期なのかなと、このコロナ禍の中ですごく感じています。

宮原:最後に、(研究公開)会場のリーダーの方々々にメッセージを頂きたいのですが。

峰さん:幼児、小学校、中学校、高校、大学・社会人という色々なカテゴリーがあって、その中で私たちはプロという一つのカテゴリーだと思います。

どの競技にしてもどの世代にしても、やはりスポーツを続けて行くことはすごく良いことだと思いますし、それは人格形成であったり、社会経験を積むという意味でも大事なことだと思います。それはスポーツでなくともいいかもしれませんが、スポーツがみんなで見直される一番分かりやすいものなのかなと思います。

我々プロスポーツはその最たるもので、やっぱりその根底はスポーツを続けられる環境があり、スポーツを応援してもらえる環境があって初めて成り立つものですし、先ほどの西原商会アリーナさんの掲げていらっしゃる「見るスポーツ・するスポーツ・支えるスポーツ」の意味は、誰でも、どれでもできることなのかなと思っています。そしてこれが健全な子どもたちの育成につながると思います。鹿児島をみんなが応援する事は意味のあることなのかなと。

今は、どのスポーツでもコロナ対策をしていると思いますが、そういう中で手を取り合ったり、一緒にやっていって全てのスポーツが共に成長し、全てのスポーツを誰でも楽しめるようなそういう空間作りができれば最高なのかなと思います。

鹿児島県のスポーツの象徴としてバスケットボールを広げ、個人・企業を問わず鹿児島県民が一丸となって盛り上げて行くイメージがハッキリと伝わるレブナイズさんの熱い想いに感動しました。(大平)



サッカー・バスケはもちろんですが、
★鹿屋で「CIEL BLEU」(シエルブルー)という自転車のプロチーム
★「MORI ALL WAVE」という女子ソフトボールチーム
★日置で「FRAGOLAD」(フラゴラッド)というバレーのチームがVリーグを目指して立ち上がりました。(峰)

子供から大人まで、鹿児島県民一丸となり、スポーツ全体を通して鹿児島を盛り上げていきたいというレブナイズさんの桜島の噴火のごとき熱き思いに感動しました。(大平)

レブライスもシーズン in (れぶにゃん)



レブライス美味しいニャン



〈テーマ〉
**コロナ禍における
 花野スポーツクラブの活動状況**

スローガン

KENO
 気軽に (K) エンジョイ (E) 何でも (N) OK (O)

愛される→認知される→会員増加→活発な活動
 を目指します。

I 花野スポーツクラブ (KSC) の紹介

- 1 創立 2008年 (平成20年) 1月
- 2 理念

**みんなで創り みんなが楽しみ
 みんなに愛される 花野スポーツクラブ**

《創る》

- ・支え合う
- ・事業への参加
- ・住民への啓発

《楽しむ》

- ・思いやり
- ・満足感・達成感
- ・次回への意欲

《愛される》

- ・地域の理解と認知
- ・教室・イベントへの参加
- ・会員加入

スポーツの素晴らしい力で健康で活力ある生活の実現
 (いつまでも 健やかに 生き生きと 安心して暮らし続ける生活)

『いい汗 いい顔 いい気分』 ※鹿児島県総合体育センター、キャッチフェローズ
 という気持ちでやってもらいたいです。

3 活動内容

(1) 常時活動：4種目

バレーボール (週2) , ソフトバレーボール (週2)

ミニテニス, 卓球

(活動休止：空手道, バドミントン)

以前は活動していました。
 是非、復活させたいと思っています。

(2) イベント等

スポーツ教室 (15回, 30時間) , 交流大会

ホテルウォーキング, グランドゴルフ大会等

4 活動拠点：3カ所

花野小学校, 緑丘中学校, 河頭中学校

(活動休止：伊敷小学校, 西伊敷小学校)

拠点も復活させたいと思っています。

5 会員数

74人 (子ども1人, 一般44人, 高齢者29人)

II 新型コロナウイルス感染予防の取組

1 感染予防のキーワード

◎活動に『持ち込まない』

◎活動で『もらわない』

◎活動を『中止する』



『持ち込まない』は、日常生活の中での対策です。会報の紙面を使って、心情に訴えてきました。

※会報のコピーを添付しました。

2 『持ち込まない』

○毎月の会報：情報提供、お願い等、心情に訴えて（11ページ）

3 『もらわない』（14ページ 3）

○活動時での予防 ○名簿提出、出席簿、活動日誌

○世話係が中心になって指示、伝達

『もらわない』は活動中の感染対策です。

III 『中止する』

○2020年：3回

・3月2日～4月6日 公共施設使用禁止

・4月23日～5月6日 体育館使用禁止

・7月13日～8月20日 近隣に感染者出現

○2021年：2回

・8月13日～8月31日 濃厚接触者出現

・9月1日～9月30日 まん延防止重点措置

○2022年

・1月18日～ 爆発的感染警報



IV 濃厚接触者

濃厚接触者の思い（15ページ）

○高校生

～実際、自分が濃厚接触者になり・・・心が重く破裂しそうなどとても長い長い時間だった。～

○50代

～家族の中では、ばい菌扱いされ孤独になった。

感染した人は、もっと苦しい思いをしたと思う。

「絶対に誹謗中傷だけはやめよう。」と思った。～

実際に濃厚接触者となった方の思いです。

お二人には、趣旨を説明した上でご協力いただきました。心から感謝します。

I 花野スポーツクラブ(KSC)の紹介 (8 ページの紹介をご覧ください)

II 新型コロナウイルス感染予防の取組み

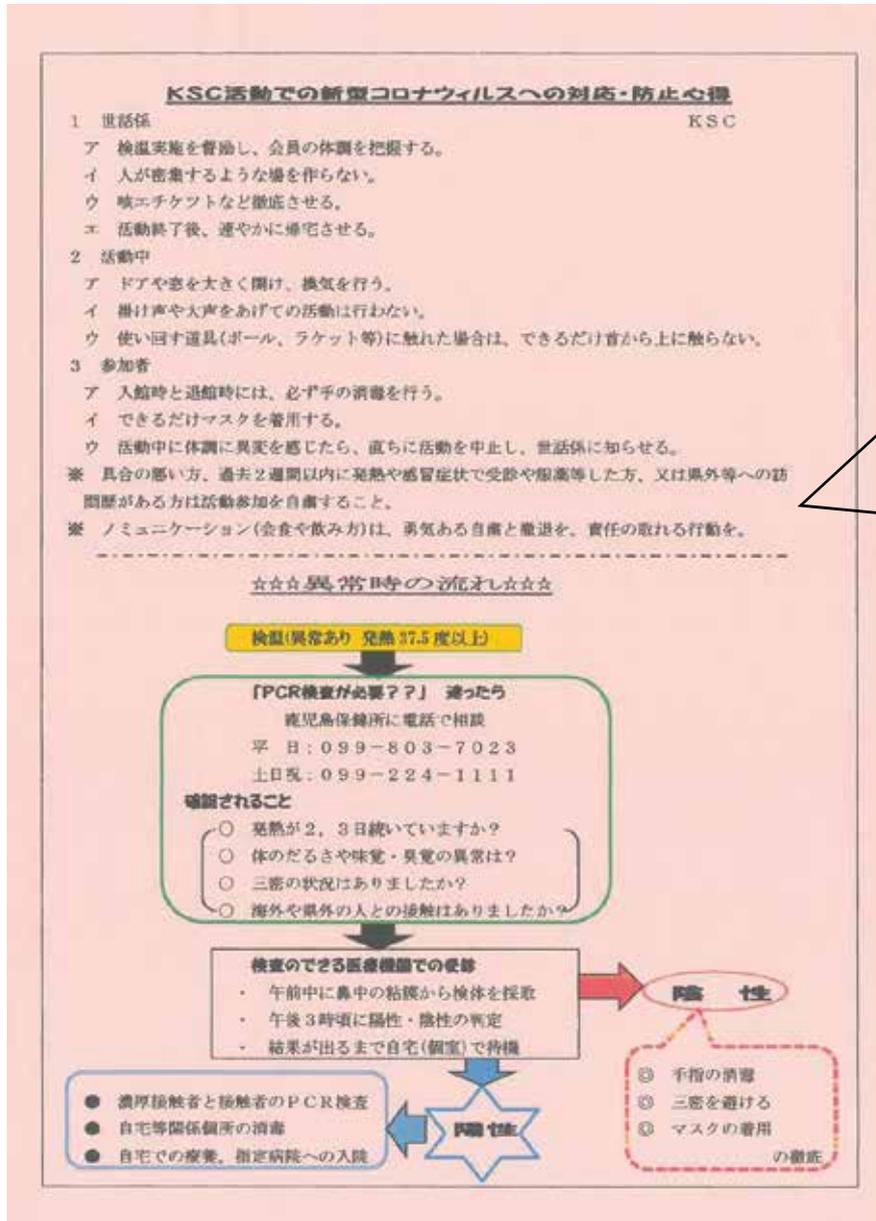
1 感染予防のキーワード(key Word)

活動に『持ち込まない』

活動で『もらわない』

活動を『中止する』

『KSC活動での新型コロナウイルスへの対応・防止心得』会員配布



実際の心得をコピーしたものです

活動状況



ジュニア・スポーツ教室

活動状況



高齢者スポ・レク教室

2 『持ち込まない』 取組み：毎月の会報で情報提供。お願い等を **心情** に訴えて。

① 2020年4月会報 **表**

実際の会報をコピーしたものです

2020年4月活動計画

○印:活動日 2020, 4, 1, ~4, 30

場所	花野小					緑丘中	河頭中	備考	
	日	曜	バレー	卓球	ソフト	テニス	バドミ		バレー
1	水								
2	木								
3	金								
4	土								
5	日								
6	月	○						中止	入学式
7	火		○						
8	水						○		
9	木			中止					
10	金								
11	土				○				
12	日								
13	月	○						中止	
14	火		○						
15	水						○		
16	木			中止					
17	金					(休)			
18	土				禁止				市議選準備
19	日								市議選
20	月	○						中止	
21	火		○						
22	水						○		
23	木			中止					
24	金					(休)			
25	土				○				
26	日								
27	月	○						中止	
28	火		○						
29	水						○		
30	木			中止					
計		4回	4回	0回	2回	(2回)	4回	0回	

◇裏面に連絡・情報等があります。ご覧ください。

5月以降の4月会報(次ページ) 部分に当たる所だけ抜き出したものです。

② 2020年5月会報

「コロナ禍は、樹形図のように広がります」

連日連夜、コロナウィルス感染症の放映が続いています。やや縁遠いような感覚でいましたが、本市にも発生し、身近なものとして危機感が増してきました。恐怖を感じます。◆お互い、行動を慎みながら感染予防に努めていきたいものです。目に見えないだけに厄介です。◆特にコロナウィルス感染症は、まるで 樹形図(樹木の枝の広がりのような図形)のように感染が広がっていく怖さがあります。

活動中止、開放禁止

- 開放禁止 花野小・河頭中学校 4/1 (水) ~4/5(日) 入学式準備、入学式のため
花野小 4/18 (土) 市選準備
- 活動中止 ソフトバレー(花野小、河頭中) コロナウイルス感染予防のため4月の全活動を中止

新型コロナ感染症により、市からの指示で3月2日から市内全スポーツクラブの活動は中止されてきました。東京五輪は来夏に延期され、そして、あの「喜劇王志村けんさん」までも・・・。鹿児島市では、4月より学校施設は解放されますが、コロナの状況ではいつ活動禁止の指示が出るかわかりません。

コロナ感染症予防を

とうとう鹿児島にも感染者が出現してしまいました。身近なこととして細心の注意を払い感染防止に努めたいです。昔から「用心は、臆病に」といわれます。臆病者になって用心しましょう。

三害の回避を

KSC活動参加での心得

- 体調不良の時は、絶対に参加しない。平常より高い体温。咳が出る。ノドが痛い。鼻水が出る。臭いや味がわからない。疲れ気味。だるい。等
- 声かけ、話し合いでは、できるだけ距離を置く。マスク着用が望ましい。
- 必ず窓を開け、換気が十分行えるようにする。

(3/30 南日本新聞より)

※ 自分の不注意で、家族を初め周囲に絶対に迷惑をかけないよう、お互い思慮ある行動をしましょう。自分だけは・・・の過信は最大の敵です。欲望も抑えて!

運営委員会、総会

- 運営委員会を4月4日(土)に開催し、2019年度の経過報告・会計決算報告、2020年度の事業計画・予算について審議しました。
- 総会については、「新型コロナ感染」予防(拡大防止)のために開催を中止することとしました。後日、総会資料を配布し、併せて資料取り扱いと運営について文面でお知らせとお願いをいたしますのでご了解下さい。

2020年度の会員募集

4月5日現在の加入者	令和元年度
一般会員 36名	50名
高齢者会員 27名	36名
子ども会員 0	0名
計 63名	86名

昨年度より23名も少なくなっています。呼びかけをして会員を増やしていきましょう。

4月 卯月 April (Apr)

「若いそめて 花見どころ ひろやかに 院菊」

多人数での花見どころではない今年の春です。家族でひっそりと楽しむのもいいかもしれません。自分にできることを守りながら、コロナの終息する日を待つ春の日々です。2020年度最初の活動月です。今年も楽しくやりましょう。

事務局 道添(090-6778-5414)

実際の会報をコピーしたものです

5月以降の会報

部分に当たる所だけ抜き出したものです。

「何もかもチュウシ、ちゅうし、中止・・・です。」

スポーツ界では何もかもチュウシ、中止。甲子園も、中・高校総体も、国体も・・・中略・・・。
しゃべりたい、一緒に飲みたい、楽しみたい等々は辛抱しなくちゃ。収入が無く生活に困っている人達、感染して苦しんでいる人達がいることを思っ

5月以降の会報 部分に当たる所だけ抜き出したものです。

④ 2020年8月会報

「クラスター発生」

・・・前略・・・クラスターが発生し、あっという間に連鎖から連鎖へと拡大してきました。ここで初心にかえり予防に努めないといけないことになりそうです。

【自分でできるコロナ対策を励行して予防に努めましょう】 ☆ 三つの密を避けましょう

⑥ 2020年10月会報

「コロナ禍のスポーツ活動とガイドライン」

・・・前略・・・◆日本スポーツ協会(J S P O)の「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」を受けて各競技団体もガイドラインを作成し主催者向け、参加者向けに約80項目のチェックリストを設けています。◆K S Cの通常スポーツ活動での心構えは、全員配布の「K S C活動での新型コロナウイルスへの対応・防止心得」、8・9月の会報に記載してある内容が基本なので再度熟読されて感染予防に努めていきましょう。

⑦ 2020年11月会報

「スポ活」

日常的にスポーツに親しみスポーツを楽しむことを『スポ活』と言っているらしい。◆ところが、コロナ感染症がパンデミック(世界的大流行)の状態です。スポーツどころではなくなりました。・・・中略・・・

◆コロナ禍に細心の注意を払いながら「スポ活」を続けていきいつの日か必ずやってくる

『Go To Sport』を待つことにしましょう。

⑧ 2020年12月会報

「忘年会・・・イク or イカナイ」

忘年会のシーズンがやってきました。コロナ予防対策をしての飲ん方でしょうが・・・◆参加するも勇気。断るも勇気。どちらにするか???状況、心情等絡んで・・・◆迷惑をかけない、後悔しない判断を。大人だから。家族がいるから。

⑨ 2021年2月会報

「世相・コロナ禍」

2021年もひと月が過ぎようとしています。例年と違った新年を過ごされたことと思います。

・・・中略・・・

◆今まで、会報にコロナ感染予防について記載してきました。「コロナ感染予防」「自分でできるコロナ対策」「K S C活動が存続していくために」等々。再読していただけると有難いです。◆防御をいかにするか。心の緩みが怖い。自分に限って・・・、このぐらいは・・・が禁物。自己防衛に努めていきましょう。

⑩ 2021年8月会報

「スポーツは素晴らしい TOKYO 2020 オリンピック」始まる

賛否両論ある中で7月23日開会式。観衆の無い中での熱戦。選手全員が「参加してよかった」と言える大会であってほしい。・・・中略・・・観ている者の心を奮い立たせてくれスポーツのよさを実感した。

◆・・・選手の活躍と感動をいつまでも心に留めおきたいと思っている。スポーツはやっぱり素晴らしいですね。

⑫ 2021年9月

「再度コロナ禍からの逃避を」

・・・前略・・・撃退できないのであれば感染しないように防御(予防)するより方法がありません。

◆・・・わが身や家族を守ることを改めて自覚したいものです。◆**今、最も大事なこととして、感染予防の基本にたしかえることだ**と言っています。すなわち『マスク』『換気』『手洗い』『密を避ける』ことです。◆K S Cの活動参加にあたり、2020年9月の会報に掲載した内容を再度記述します。分かり切っていることで恐縮ですが、基本に立ち返っての予防のためですので・・・

⑬ 2021年10月会報

「コロナ感染まん延とスポーツクラブの活動について」

地域スポーツクラブの所管機関である(公財)鹿児島市スポーツ振興協会から文書「本県における独自の地域緊急事態宣言の発出等に伴うスポーツ活動について」が、9月1日付で届きました。文面は次の通りです。

◆『本市における感染者の増加を受けて、これまで以上に危機感を持った感染症対策を実施する必要があります。各地域スポーツクラブの活動におかれましても、その活動につきましては、適切にご判断いただきますようお願いいたします。』・・・

⑭ 2021年11月会報

「活動再開」

コロナ感染症の「まん延防止等重点措置」が解除され、明るい兆しが見えてきたように感じます。しかし、より強力な感染症が近い将来再流行するだろうと専門家は警鐘を鳴らしています。国も3回目の予防接種の準備を進めようとしています。・・・中略・・・◆KSCの常時活動においても三密厳守・手指消毒・マスク着用をし、『**持ち込まない**』『**もらわない**』に心がけてくださるようお願いいたします。そして、以前のように**多くの会員が参加して活気あふれた活動**ができることを願っています。

3 『もらわない』活動時の取組み

ここからが『もらわない』です

(1) 参加者名簿、出席簿、活動日誌の活用

① **参加者名簿**：世話係が所持し万々に備える。

活動種目：			活動場所：				世話係：			
番	名前	生年月日	性	住所			電話			
1	花野 太郎	1970, 2, 6	男	891-1204 花野光ケ丘 1-2-3			090-1234-5678			
2										

② **出席簿**：参加者の確認

活動種目：			活動場所：										世話係：					
番	名前																	
1																		
2																		
計		人																

③ **活動日誌**：世話係で活動内容・活動状況等を記録する。

(2) 活動時での**感染対策**

ここから具体的な感染対策

① **手指消毒**

○体育館入館時 ○休憩時 ○退館時

② **密閉を避ける：換気**

○出入り口の扉、窓の全開 ○換気扇を点ける ○扇風機・送風機の使用

③ **密接を避ける：ソーシャル・ディスタンス**

○休憩時は、できるだけ外に出て対面を避ける。車座を避ける。
○ハイタッチの禁止。アイコンタクトやゼスチャーでの意思表示。
○連絡事項等は、間隔を十分とって行う。
○卓球：密接を避けるためにシングルスのみ行っている。
○他者の用具に手を触れないように心がけている。

③ **マスクの着用**

○場面によってはマスク着用を呼び掛けている。個人の意思で着用している場面が多い。

⑤ **参加者への呼びかけ**

- 活動終了後、毎回感染予防を呼びかけている。特に若者へ行動に気を付けるよう伝えているが 毎回声掛けするのが嫌になった（若者を悪者扱いしているように受け取られているような気がして）。
- その日の体調を自己判断して活動参加の有無をするように呼びかけている。
- コロナ禍についての情報交換をしている。
- 高齢者が多いので、とりわけ体調には気を付けて活動してもらっている。

III 活動中止

(1) 2020年

- ・ 3/2 ～ 4/6 小・中学校の体育館・校庭、公共施設の使用禁止
- ・ 4/23～5/6 コロナ禍、感染者増加による体育館使用禁止
- ・ 7/13～8/20 近隣にコロナ禍、感染者出現のため

(2) 2021年

- ・ 8/13～8/31 コロナ禍、濃厚接触者出現のため
- ・ 9/1 ～ 9/30 まん延防止等重点措置のため

(3) 2022年

- ・ 1/18～2/20 市内コロナ禍感染者急増のため

IV 濃厚接触者

濃厚接触者の思い

(1) 高校1年生、女性

突然かかってきた一本の電話で、パニックになってしまった。◆ニュースでは毎日感染者数と亡くなった人数、感染拡大防止等の呼びかけがある。「大変だなあ気を付けよう。」と思っただけでもどこか自分には関係ないのではないかと思っていた。◆実際、自分が濃厚接触者になり、翌日の検査結果を待っている夕方までの時間は、不安で心配で何も手につかず、心が重く破裂しそうなどとても長いながい時間だった。◆陰性と分かってからも自宅で毎体温を測りながら体調を心配する日々。幸いに夏休み期間でよかったが、夏休みの課題にも手が付けられない2週間だった。◆それ以後、自分も感染するかもと他人事とは思ってはいられなくなり、マスク着用、うがい、手洗い、手指消毒を徹底し、感染防止に心がけている。

(2) 50代、男性

身近に感染者が増えてきてはいたが、まさか、自分が濃厚接触者になろうとは思っていなかった。◆職場に連絡し、濃厚接触者になったことを報告。2週間の自宅待機命令が出た。後から、あの時マスクは着用していなかったよな～。ハイタッチもしたよな～。感染しているかもな～。家族との距離を取らないといけないな～。ワクチン接種済であるが、自分も感染していると思いながら生活をした。◆周りとの距離をとり、家族の中ではバイキン扱いされ孤独になった。他の濃厚接触者に連絡を取りたいが、もし、その人が感染していたらと思うと連絡も取れなかった。◆そして、職場より連絡。医療従事者は、毎朝抗原検査で確認後、陰性なら仕事をしていいことになった。陽性反応が出ないようにと思いながら15分待ち、陰性を確認して仕事開始。そんな日が11日間続いた。職場と家との往復だけ。いつ発症するか分からないのに、職場ではコロナ患者のために仕事を行い、帰宅すると自分の体調を確認した。病院では、よくウツになったり自殺したがるようになる聞いていたが、その気持ちが分かってきた。◆2週間後、感染の可能性がないことでほっとした。感染防止策をしっかりしようと思った。事務局から連絡があり、他のメンバーが感染しなかったことを聞いた。ほんとによかった。しかし、感染した人は、もっと苦しい思いをしたと思う。絶対に誹謗中傷だけはやめようと思った。

⑦ 対策で苦勞した点

- ◎ 低学年の子ども達はなかなか隣との間隔を取ってくれない。
- ◎ 団員よりも保護者の感染が心配
- ◎ マスク着用時の呼吸困難や熱中症のリスク（保護者の同意で着用）
- ◎ 濃厚接触の可能性が生じた場合の分画とプライバシーへの配慮
- ◎ 保護者が自宅におらず、事前検温等がない子がいた。
- ◎ 窓を開けられぬ種目、または雨天時の換気（今後の課題）
- ◎ 大量のマスク準備や消毒液の確保（店の在庫や費用面）
- ◎ 防具（用具）の消毒に時間がかかる。
- ◎ 換気で寒く風邪が心配

⑧ 対策で成功した点

- ◎ 他の病気になる子が少なくなった。
- ◎ 遠征や合宿を中止したこと。
- ◎ 健康に関する関心が高まった

⑨ 改善した方がよい点

- ◎ 試合中のかげ声（今後の課題）
- ◎ 同じ場所を使う他の団体との連携
- ◎ なるべく密を避ける時間を長くする
- ◎ 道具等のこまめな消毒
- ◎ 車での移動の際、配車の組み方
- ◎ 会議や話合いが、コロナ禍で省けることが明確になった

⑩ 今後の留意点や大切にしたいこと

- ◎ 今後もマスク手洗い消毒、うがい、検温を心がけていきたいと思っています。
- ◎ 「これくらい大丈夫」と慣れからくる油断をしないよう声掛けを続ける。
- ◎ 来年度への少年団の活動のためにも、今年度の活動が大事になると思います。
- ◎ 感染者が出てても現状では当たり前であるとの認識を浸透させる。
- ◎ コロナ差別や偏見・誹謗中傷が出ないよう指導者をはじめ親子で話し合う。
- ◎ 万が一の際プライバシーへの配慮
- ◎ コロナ感染に育成会の個々の思いを受け入れたい。（育成会の充実）
- ◎ 各家庭での体調管理等、少しでも体調がおかしい時の対応
- ◎ 子ども達が自主的に自分達のことがるチーム作り
- ◎ 情報管理、情報共有
- ◎ 昨年の6年生の出来なかつたことをやっけていきたい。
- ◎ 手洗い・消毒、子ども達が楽しく活動する環境
- ◎ 子どもが主役なので保護者が何人も参加しなくてよい。
- ◎ 感染者が出た場合に広げないように注意したい。
- ◎ 保護者・家族の予防接種を早急にお願したい。
- ◎ 熱中症対策を忘れない。

⑪ チームの声：コロナ禍で感じたことと得たもの 失ったもの

- ◎ 活動中止（大会 クリスマス会 忘年会 6年生を送る会 食事会 etc.）
- ◎ 活動中止を経験して、こうして少年団活動が出来ること、この普通のことを知ることはすごく幸せなことだと感じた。あたり前でも普通の生活の大切さを知ることがた。
- ◎ 成果を発揮する場がなく子ども達のモチベーションの低下。
- ◎ 得点時の喜び方など、子ども達の楽しさやうれしさをの感じ方、表現が小さくなった。
- ◎ 子ども達の日常が失われている。
- ◎ 一試合一試合を大切にプレーしようという気持ちが出てきたようです。
- ◎ 短時間で集中して練習に取り組めた。
- ◎ 団の団結力は深まったと思います。
- ◎ この状態で「親も子も一丸となる!!」のは難しいと感じます。
- ◎ 色々な場面での交流が減り様々な経験値も低くなっている。
- ◎ 交流の場が持たず、チームにとけ込めていない家族もいます。
- ◎ 団員の体力
- ◎ 声を出して応援がないのがきついです
- ◎ 辛かったがチームとして乗り越えられたと思う。
- ◎ 6年生にとっては、とても残念だったと思う
- ◎ 応援が出来ないため、子どもの成長が見られない。
- ◎ これまで通りではいけない。
- ◎ 無理の無い範囲で、出来ることを工夫して行う。

⑫ 自由記載欄

- ◎ コロナを正しく受け入れ、無理なく楽しく少年団を続けたい。
- ◎ 感染拡大の一言で行事が中止になった場合、意見が言えない。
- ◎ 現状を当たり前のこととして行うべき。
- ◎ 基本から外れたところに感染リスクが存在する。
- ◎ 大きな声でプレー・応援する日が待ち遠しい。
- ◎ 今我慢している分、努力して良い結果につなげていきたい。

⑬ 活動が中止となった判断（協議）内容

- ◎ 周囲の状況に合わせる
- ◎ 学校に感染者が出た場合は監督が判断する。
- ◎ 同種目スポーツ（高校総体等）を参考にする。
- ◎ 学校や先生（指導者）とその都度判断した

令和3年度生涯スポーツ研究公開質問項目
『コロナ禍で学んだこと』

『伊敷台空手道スポーツ少年団』

校区名(伊敷台校区) 記入者氏名(井出幸子)

校 区：伊敷台校区
代表者：井出幸子
指導者：井出俊郎 西園真
種 目：空手道

質問項目	回 答
① チーム名/種目名	伊敷台空手道スポーツ少年団/空手道
② 活動日/活動場所	水曜日・土曜日/伊敷台小学校体育館
③ チーム人数/年齢層	13名/幼児、小学生、中学生
④ 使用する道具等	メンホー、拳サポーター、防具
⑤ 実施した具体的なコロナ感染対策	1. 自宅で検温実施、体育館で消毒・体調の聞き取りをしている 2. ドアや窓を開け換気を行う。3. 掛け声、大声を出さない。 4. 体調不良者の参加自粛5. 防具の消毒、メンホーサイズールド
⑥ 感染者が出た場合の対応	学校、市スポーツ少年団事務局、保健所、保護者に連絡
⑦ 対策で苦労した点	①冬場ドアや窓を開け練習の際、寒くかざが心配 ②活動中のマスクは呼吸困難や熱中症のリスクが高いため原則着用しない、自己防衛でする場合、本人、保護者の同意を得て着用させている。
⑧ 対策で成功した点	現時点感染者はいない。
⑨ 改善した方がよい点	
⑩ 今後の留意点や大切にしたいこと	1. 日常の手洗い、うがい、消毒、マスクの着用
⑪ チームの声コロナ禍で感じたこと 得たもの	①大会や学校、地域行事が中止となり団員や保護者のモチベーションが下がった。②日常、学校、地域で手洗い、うがい、消毒等衛生面で気をつけるようになった。
⑫ 自由記載欄	コロナ感染の一言で行事が中止になった場合、意見が言えない。
⑬ 活動が中止となった判断(協議)内容	大会や学校、地域行事が中止となった場合保護者や団員に事情説明理解を得ている。

注) ①～⑩に回答して下さい。注)活動が中止となったチームは※印に回答して下さい。

①	チーム名/種目名
---	----------

Q1	どんなクラブ？
----	---------

伊敷台空手道スポーツ少年団は平成5年4月、伊敷台小学校開校と同時に創立、今年29年目を迎える団です。

理念は礼に始まり礼に終わる、(相手を尊重する挨拶、大きな返事をす、履物を揃える)心と体を鍛え人間力を高めることと地域に根ざした活動ですることです。

稽古は短時間ですがストレッチ・基本・形・組手を中心に集中して真剣に学んでいます。

これまでに校区の行事(夏祭り、伊敷台まつり、走ろう会等)スポーツ少年団(交流交歓大会、年末クリーン作戦)ドイツスポーツ少年団、スリランカの選手たちとの交流に参加しています。

③	チーム人数/年齢層
---	-----------

現在団員13名、週2回水曜日、土曜日に1時間半稽古しています。

⑪	チームの声コロナ禍で感じたこと 得たもの
---	-------------------------

この2年間コロナ禍の中で行事や大会等が中止になり、保護者も団員もモチベーションが下がった時期もありましたが、コロナで学んだことは、稽古の時も日常生活や社会活動でも衛生面に気を付け、検温・手洗い・消毒・マスク着用が習慣となった結果、風邪や病気をしなくなり、集団活動や危機管理意識を持つようになりました。

何よりも身についたのは大会や行事が直前に中止になっても気が動じず次に備える準備ができるようになったことです。

『コロナ禍で学んだこと』アンケート集計（地域スポーツの部）

※ 集計の中に出てくる①～⑬の番号は（18、21ページ）アンケート用紙の番号です。
 ※ ●ポイントで集計しましたが、各チームは全ての内容において活動されていたようです。
 （この表はチームの紹介としてご覧下さい）

種目	使用道具等	チーム名	週何日	活動場所	人数	年齢層
グラウンドゴルフ	クラブ・ボール・ポスト他	KSC	3	花野光ヶ丘公園	46	社会人
ソフトバレー	ボール・支柱 ネット・点数板 アンテナ	北ザイル スマイル KSC	1	伊敷台小体育館	14	社会人
ソフトバレー			1	伊敷台小体育館	18	社会人
ソフトバレー			2	伊敷台小・伊敷台中	15	社会人
ソフトバレー			2	河頭中・花野小	20	社会人
バトミントン	シャトル・ラケット	伊敷台バトミントン	1	伊敷台小体育館	15	社会人
バトミントン	ネット・支柱 他	小山田バトミントン	2	小山田小体育館	20	社会人
ミニテニス	ボール・ラケット・ネット 他	ごいし会	2	小山田小体育館	10	社会人
バレーボール	ボール・ネット・支柱 他	KSC	2	花野小・緑ヶ丘	22	社会人
卓球	ラケット・台	KSC	1	花野小体育館	9	社会人
空手道	拳サポーター	伊敷台空手道愛好会	2	伊敷台小体育館	13	社会人
ポッチャ	ポッチャ用具	ポッチャ協会	1/5	ハートピアかごしま	30	社会人
計					117	5524403000

⑤実施した具体的なコロナ感染対策										⑥仮に感染者が出た場合の対応				⑦対策で苦労した点			⑧対策で成功した点							
(シールド等)			(紙コップ等)			(声出し等)				(意識の共有)		(大会・活動等)			意識の共有									
消毒	換気	検温	マスク着用	手洗い	3密回避	体調確認	マイボトル	応援禁止	立入禁止	接触禁止	活動中止	時間短	情報共有	保健所対応	学校の指示	大会中止	マスク着用	保護者協力	実施判断	練習中断	感染者なし	感染対策徹底		
●	●	●	●	●	●	●		●											●	●			●	
●											●		●											
●	●	●	●										●											
●	●	●	●								●													
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					
●	●	●	●																					

⑩ 今後の留意点や大切にしたいこと

- ◎ 日常の手洗い・うがい・消毒・マスクの着用
- ◎ 一人一人の感染に対する心構え
- ◎ 感染対策活動日を増やす。
- ◎ 実施するか、どうか？ 早めの判断が必要
- ◎ 感染者に対して、誹謗中傷をしない。
- ◎ 一人一人に認識して頂くため定期的に説明の機会を持つ
- ◎ 作成した6つの心得を徹底する
- ◎ 社会生活での感染対策もしっかり持続する。
- ◎ 全員が高齢者のため、情報収集に努める。
- ◎ 幸いに会員のほとんどが町内居住のため、素早い連絡行動がとれる。

⑪ チームの声のコロナ禍で感じたこと得たもの 失ったもの

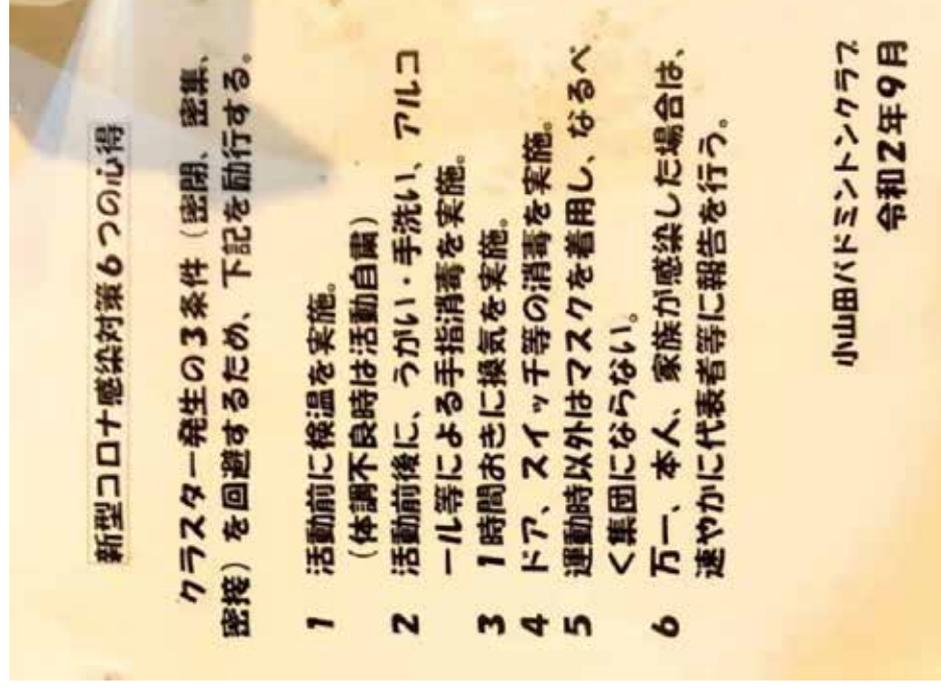
- ◎ 大会や行事が中止となり会員のモチベーションが下がった。
- ◎ 日常衛生面に気をつけるようになった。
- ◎ コロナが終息しても活動するだけの人数が集まるか心配
- ◎ 活動できない時間が、とても寂しかったので、集まるのが大切だと皆で共有し感謝しました。
- ◎ 短期目標を設定することが不安解消になると気づきました。
- ◎ 久々の練習で、人との交流が大事だと感じた。
- ◎ 絆、助け合う事ができた。
- ◎ 人と人とのふれあい会話などが少々希薄となった。
- ◎ 体を動かすことが少なく足腰が弱くなった。
- ◎ 仲間と顔を合わせられる練習日がストレス発散になったように感じる。
- ◎ 日頃の練習が当たり前ではなかった事。
- ◎ 主催者側だけの意見だけでなく、参加者全員の意見を聞くことが大切
- ◎ 長い間練習自粛を余儀なくされ、解禁と同時に水を得た魚のように活発に動いていた。

⑫ 自由記載欄

- ◎ こう言う時代が来るとは予想しなかった。
- ◎ 元通りの活動が良いと思う一方、今後も気を緩めず今の対策を続ける。
- ◎ 会員各自が対策し、話し情報交換することが楽しみであり生きがい。
- ◎ お互いを気遣いながら仲良く活動している。
- ◎ 大会や行事が中止となった場合、会員に事情を説明し理解を得ている。

⑬ 活動が中止となった判断（協議）内容

- ◎ 家族や職場での不活動自粛で欠席が増え、出席人数が少ない場合。
- ◎ 緊急事態宣言やまん延防止の実施、ステージの基準で判断
- ◎ 活動休止は解除されたが、再開の準備が間に合わず中止とした。



校区分 (小山田校区) 記入者氏名 (西 博文)

質問項目	回答
① チーム名/種目名	小山田バドミントンクラブ / バドミントン
② 活動日/活動場所	毎週月土曜日 / 小山田小体育館
③ チーム人数/年齢層	15~20人 / 20~70代
④ 使用する道具等	支柱・ネット
⑤ 実施した具体的なコロナ感染対策	・体育館入口に検温計・消毒液を設置 ・マスク着用、3密防止、扇風機使用、1時間扉開放
⑥ 感染が出た場合の対応(決まっていた場合)	・6つの心得を定め、体調不良者及び発熱者は代表者に連絡する。
⑦ 対策で苦労した点	・6つの心得も各自に徹底し実施する。
⑧ 対策で成功した点	・現在までに問題の発生はから出ない。
⑨ 改善した方がよい点	・今よりも順調で特になし。
⑩ 今後の重要点や大切にしたいこと	・1人1人に対する対策の重要性を認識する ・定期的な声かけ等も実施する。 ・作成した6つの心得を徹底する。
⑪ チームの声 コロナ禍で感じたこと 特化したもの	・若い世代が来るとは思いがけず、 ・コロナ禍ではあるが、スポーツを楽しむ人 と人との違いが、観望者の大団円や学生
⑫ 自由記述欄	・新型コロナウイルスが、早急に収束し、普通の 生活に戻りたい。 一方、気を緩めると大きく、要対策に努めたい。
⑬ 活動が中止となった 判断(協議)内容	・慢性的な重点措置に伴い中止とせず。

注) ①~⑩に回答して下さい。

注) 質問が中止となったチームは※印に回答してください。

『小山田バドミントンクラブ』

校 区：小山田校区
代 表 者：西 博文
種 目：バドミントン

①	チーム名/種目名
Q1	どんなクラブ？

皆さんこんにちは。小山田校区の西と申します。小山田バドミントンクラブの概要について説明いたします。

バドミントンを通して体を動かすことが好きなメンバーの集まりで、健康増進(維持?)・交流・親睦・生き甲斐などを目的としています。
レベルも経験者、未経験者様々なので、前半は混合・後半は技量毎に分かれるの試合をします。

2つのクラブがありまして、1つ目は月曜日の夕方、2つ目は土曜日の午前前に活動しています。月曜日のクラブは大分古く、40数年ぐらい前からあり、2つ目のクラブも結成後約30年になります。

③	チーム人数/年齢層
---	-----------

チームの人数にはそれぞれ約15名~20名程度です。
月曜日は働き盛りの20代~熟年組60代と様々です。
土曜日はリタイヤ組の60代、70代がほとんどです。
(両チーム在籍者は4名ほど)

⑦	対策で苦労した点
---	----------

『6つの心得』を定めて体育館入り口と壁に掲示し、皆さんを集めて説明と協力依頼をしました。時間とともに意識が希薄にならないよう、体温計測、消毒、マスク着用、換気など定期的に声かけをしています。

⑥⑦⑩	『6つの心得』って何ですか？
-----	----------------

私が以前まちづくり推進協議会(地域コミュニケーション協議会)の事務局にいた関係で、市役所等から送られて来る様々なコロナ関係の文書を自分なりにまとめたものです。

Q2	コロナはなかなか終息しませんが、今後どのような活動になりそうですか？
----	------------------------------------

以前のような活動は困難と思われるので、不自由さを許容しながら、また感染対策を常としながらの活動になると思います。

これまで腰痛、肉離れ、アキレス切断など様々な試練がありました。ここから得るものも多かったので「継続は力なり」を目標に、間もなく70才を迎えますがもう少し活動を続けたいと思います。

運動発表会（運動会）における 新型コロナ感染症対策

鹿児島市立 犬迫小学校

本年度も、そもそも運動会を実施するかしないかから話し合いをはじめ、想定される感染リスクに対応可能かどうか検討を重ね、実施する方向で進むこととしました。共通理解したことは、

◎児童にとってかけがえのない「スポーツを楽しむ機会」「思い切り力を発揮する場」を大切にしたい。

◎そのうえで、感染症対策については、創意工夫して可能な限り徹底する。従って

→ 内容は、短縮・簡素化せざるを得ない場面が生じる。

→ これまでの、地域と共催での開催は、断念せざるを得ない。

→ 大運動会という内容量での実施は難しいので、運動発表会という行事として行う。

という内容でした。具体的な感染症対策は、下記の通りです。

感染対策の具体例

・各家庭2名までの参観者とし、事前の申請に基づいて、前日までに入校許可証を配布する。

・入校許可証・健康チェック表を持参して、受付をし、その場での検温・手指消毒も行う。

名簿を見ながら、入校許可証や健康チェックシートを職員で確認。



LET'S GO!
チェックが済んだ保護者は、検温と手指消毒をしていざ、参観へ。



マスクを着用。密集が想定される応援席は設けず、校庭で、離れて観戦。

開会前に、職員も児童も今一度、念のために検温。全員OK!

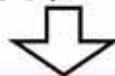


通常は、1m内外で設定している児童の間隔も、今回は2mで設定。接触を防げましたが、小規模校だからこそ可能でした。



・全児童に、軍手を購入し配布しました。
・これにより、バトンを使用したりリレーや綱引きなども、使用の都度、用具の消毒をする必要がなく、比較的安心して実施できました。

※競技中以外は、マスク着用
昼食なしの半日開催でしたが...



2mのポイントをうって



簡素化した内容ながらも、思い切り活動できる場面を設定することができ、児童の活躍を披露する場のある、児童・保護者とも笑顔の多い、《スポーツデー》となりました。

運動発表会を実施して

鹿児島市立 犬迫小学校

スポーツ推進員 平田美里

1 昨年度の実際と反省

- (1) 昨年度は、感染拡大中で「ソーシャルディスタンス」が強く求められていた時期の開催
→児童を接触させない、という事に主眼を置いて開催。
- (2) 競技は
 - ①直線コースの徒競走
 - ②直線コースのリレー（児童が1コースを走ったら、次の児童は2コースを折り返す、というバトンやタッチなしの折り返しコースのリレー）
 - ③地域伝統の犬迫音頭（例年は親子、地域の皆さんと踊るところを児童のみで）
- (3) 反省
 - 走距離が短く「力を出し切った、走った」という達成感を、十分に児童が味わうことができなかったのではないか。
 - 直線コースのリレーのため、抜きつ抜かれつといった、リレーならではの醍醐味を十分に感じる
ことができなかったのではないか。実際、応援も淡白なものとなっていた。

2 反省をもとに

昨年度も、何とか開催したものの、児童が「頑張った。」とか「運動会が楽しかった。」と感じられないようでは、本末転倒であろうという反省に立ち、力を出し切れる場、応援のやり甲斐のある競い合う場が必要であろうと判断。場の設定を工夫した。

3 本年度の実際の一例

・トラックでの短距離走

児童の接触はありうるが、事前の検温・手指消毒、直前までのマスク着用で、できるだけ感染リスクを抑えた。

抜きつ抜かれつしながら、精一杯走る姿が見られ、事前に目標を決めたり着順に一喜一憂したりして、それぞれの児童が、本気で取り組んでいたことがうかがえる徒競走であった。（平田）

・トラックでの全員リレー

短距離走の対策に加え、全児童軍手を着用させ、バトンを使用したリレーを実施。

昨年度と比べて、リレーらしい白熱した児童の姿が見られた。また、練習時間も必要最小限に抑えて行ったが、その分、高学年生がリーダーシップを発揮し低学年生をフォローするなど、異年齢集団で活動する良さも多々見られた。（平田）

・綱引き

全校種目を → 軍手の着用・学年部ごとの3セットに分けて実施

2メートルの間隔を確保でき、思い切り綱を引く児童の姿があった。全校児童が一斉に力を合わせて綱を引くダイナミックさはなかったが、逆に、一人一人が力を出し切らなければならない場と自覚して活躍、競技を楽しんでいた。また、保護者からも「わが子の姿がよく見えた。」とおおむね好評であった。（平田）

最後に…感染のリスクがゼロではない中「密になるからできない」ではなく「密にならない方法でできることはないか」を検討し、実施した運動発表会であった。運動する楽しさを体いっぱい
に表す児童の姿に、実施の価値を感じることができた。軍手など、その後の体育の授業でも
活用中である。

『コロナ禍での運動会』

運動会における新型コロナウイルス感染症対策

鹿児島市立 小山田小学校

本校は、全校児童69名（R3.5月現在）の鹿児島市内の中では小規模の学校です。例年、地域と合同で運動会を行っていますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、令和2・3年度は、小学校単独での開催となっています。感染防止対策としては、次のようなことを行いました。

- ◇受付の設置：来場者チェックと検温の実施。
- ◇入場制限の実施：両親及び未就学の兄弟のみ。



- ◇手指消毒の徹底



- ◇3密の回避

児童席の間隔をとる。保護者席を設けない。



- ◇マスク着用の徹底：児童は、競技以外はマスク着用。児童以外はマスク着用。
- ◇時間の短縮：競技の精選と内容の工夫により、午前中で終了。

様々な、対策や制限のある中での実施でしたが…

コロナで半日になってしまったけど、運動会をすることができてよかった。思い出が作れた。（6年生児童）

子供たちが頑張っている姿を見ることができてよかった。（保護者）

感染症対策を徹底しながらの開催でしたが、競技を精選したり、内容を工夫したりすることにより、子供たちが思う存分力を発揮できる運動会になったと思います。

運動会における新型コロナウイルス感染症対策

鹿児島市立 小山田小学校

スポーツ推進員 今村光政

本校は、鹿児島市小山田町にある全校児童69名の鹿児島市内の中では小規模の学校です。周囲は、豊かな自然に囲まれていて、「竹と水と伝統芸の町 小山田」といわれており、竹細工を体験したり、伝統芸能の小山田太鼓踊りを発表したりと地域に根差した教育活動にも取り組んでいます。(今村)

学校単独で開催

地域とつながりの深い本校では、運動会を地域と合同で「小山田大運動会」として行っていました。令和2年度と3年度は、新型コロナウイルス感染症対策の為に、学校単独で開催しました。

感染対策

○「入場者の制限と受付の設置」

資料にあるように、正面入り口近くに受付を設置し記名・検温・消毒を行ってから入場としました。入場者は、重症化リスク等を勘案し、児童の両親および未就学児の兄弟のみとしました。

○「手指消毒の徹底」

各所に消毒場所を設置し、細目にできるようにしました。

○「マスク着用」

競技以外の時間はマスク着用の声かけを行い、徹底しました。

(競技中は、密な状態になる時間が長くないようにしました。)

○「3密の回避」

児童席の間隔をとることと、保護者席を設置しないことにしました。

運動会の工夫

競技の精選を行い、午前中のみで実施しました。競技の精選はしましたが、子どもたちがおもいっきり自分の力を発揮できるように、競技時間は十分確保することで、子どもたちからは、充実感いっぱいの表情を見て取れました。

新型コロナウイルス感染症対策で、制限の多い運動会となりましたが、子どもたちからは「運動会ができてよかった」や「かけっこで頑張った」というような声を聞くことができました。

運動会での子どもたちの頑張る姿や表情を見ていると、スポーツを通して味わえる感動や充実感、頑張り抜くことで味わえる達成感など、スポーツの力を改めて感じました。(今村)

最後に・・・まだまだ、新型コロナウイルス感染症と向き合う日々は続いていきそうですが、今の現状の中で、できることを模索し工夫して、スポーツをする場や機会を継続させていくことが大切なのではないかと感じました。

『イベント（運動会）開催判断フローチャート』

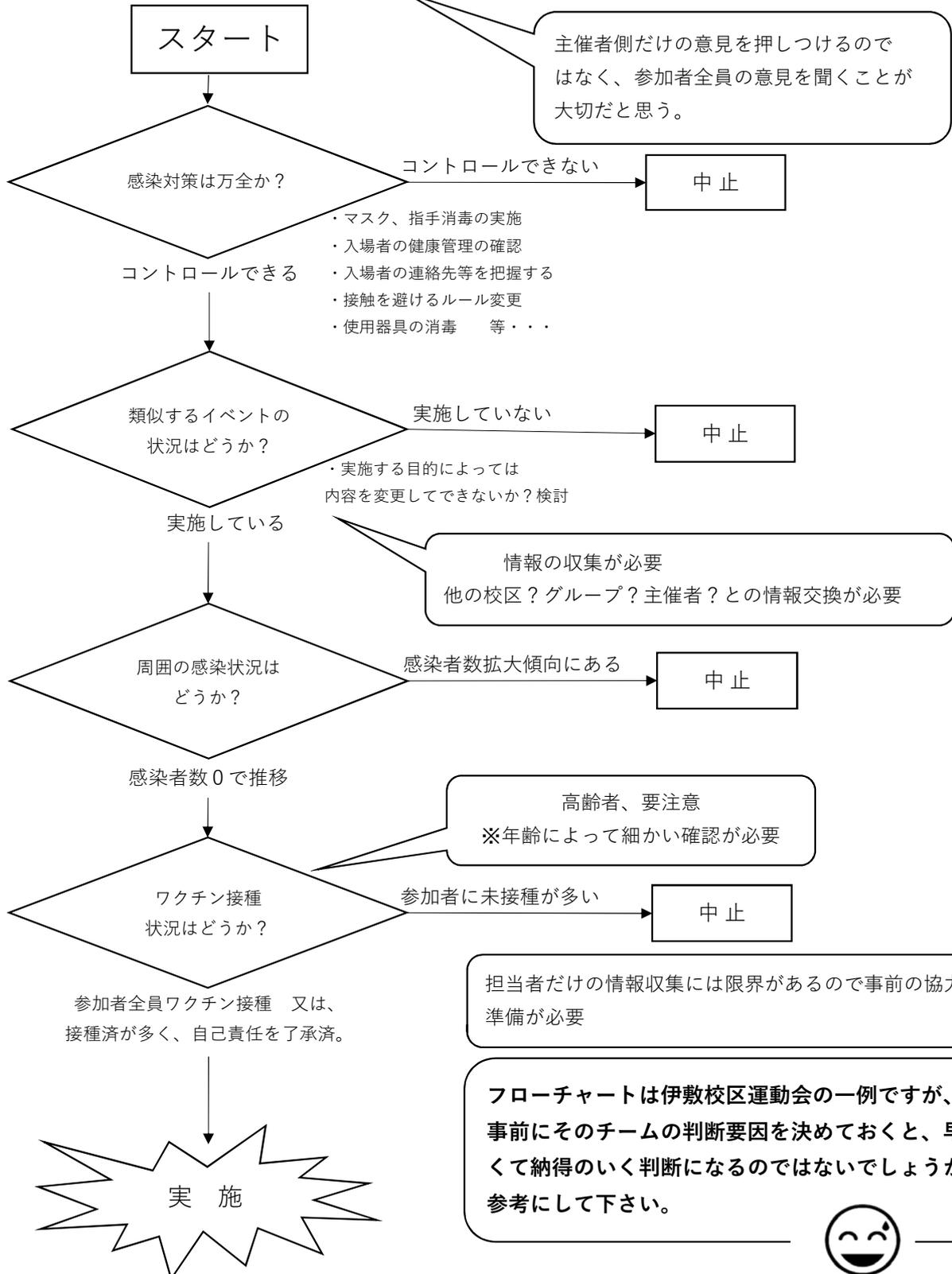
伊敷校区の一例です

校区名（伊敷小校区） 記入者氏名（今別府光広）

	質問項目	回答
①	チーム名/種目名	伊敷校区コミュニティ協議会 / 運動会
②	活動日/活動場所	令和3年10月10日 / 伊敷小学校校庭
③	チーム人数/年齢層	30名~50名×8町内会 / 幼児・園児、小・中学生、大人
④	使用する道具等	伊敷小学校体育道具全般

早めの判断が必要

イベント開催について（実施するか？判断をどうするか？）



『ニュースポーツと感染対策』

『ニチレクボール』

室内ペタンクともよばれ、パラリンピックでも採用されるボッチャにも似た競技で、発祥国であるフランスでの競技人口は500万人以上で、サッカーに次いで盛んなスポーツです。(富永)

(1) 競技概要

ニチレクボールは、ペタンクと同様にサークルの中に立って黄色の目標球に向かって、2チームがそれぞれ赤と青のボールを投げ合い、より近づけることによって得点を競うゲームです。

(2) 用具

- ① ボール（赤／青）：各6球
- ② ビュット（目標球）（黄）：1球
- ③ サークル：1輪

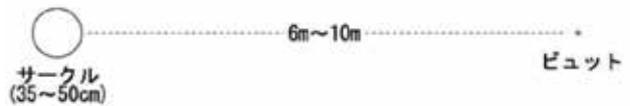
(3) 感染対策

- ① プレイヤー：メース（セット）毎にプレイヤーの手を消毒（または手袋着用）
- ② 用具；対戦後ボールおよび目標球を消毒



室内競技につき換気は会場に合わせて実施する

構成	選手	審判	計	感染対策			
				除菌ダンブ	除菌シート	マスク使用	密接
	人	人	人	個	個	○×	○△×
シングルス	2	2	4	1	1	○	○
ダブルス	4	2	6	1	1	○	○
トリプルス	6	2	8	1	1	○	○



『ビーンボウリング』

その名の通り、豆（ビーン）がはじけるようにピンにボールが当たると反転したり、反動で元にもどるようになっています。コントロールやバランスを競うゲームで、体格や体力に関係なく、老若男女誰でも楽しめる軽スポーツです。(富永)

(1) 競技概要

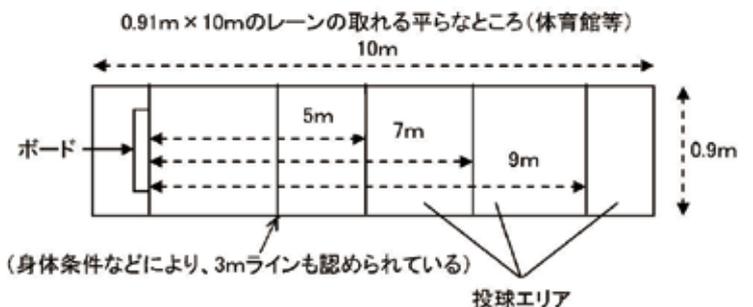
ビーンボウリングは、ピンの配列を横一列に簡略化したもので、ボールをピンに当てて回転させ、そのピンの点数を競い合うゲームです。

(2) 用具

- ① ピンセット：1セット
- ② ボール（赤／白）：各2球

(3) 感染対策

- ① プレイヤー：セット毎にプレイヤーの手指を消毒（または手袋着用）
- ② 用具：1セット毎にピンとボールを消毒



室内競技につき換気は会場に合わせて実施する

構成	選手	審判	計	感染対策			
				除菌ダンブ	除菌シート	マスク使用	密接
	人	人	人	個	個	○×	○△×
シングルス	2	2	4	1	1	○	○
ダブルス	4	2	6	1	1	○	○
団体戦	10	2	12	1	1	○	△

『シャッフルボード』

キューを用いたカーリングのような競技で、その歴史は15世紀初頭のスコットランドまでさかのぼります。適度な運動量が得られ、頭脳プレーが大きく勝敗を左右することから、男女差がなく、世代を越えて楽しめる生涯スポーツです。(富永)

(1) 競技概要

シャッフルボードは、コート反対側にある得点圏に向かって、ディスクをキューと呼ばれるスティックで押し進め得点を競うゲームです。

(2) 用具

① ディスク(黄/黒):各4枚

② キュー:2本~

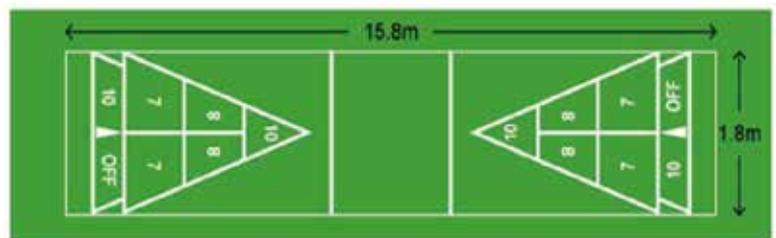
(3) 感染対策

① プレイヤー:フレイム事にプレイヤーの手指を消毒(または手袋着用)

② 用具:キューの受け渡しの際キューを消毒

室内競技につき換気は会場に合わせて実施する

情 成	選手	審判	計	感染対策			
				除菌ポンプ	除菌シート	マスク使用	密接
	人	人	人	個	個	○×	○△×
シングルス	2	2	4	1	1	○	○
ダブルス	4	2	6	1	1	○	○



『フロッカー』

フロアカーリングともよばれ、平成5年、木材の町「新得町(北海道)」で考案され、季節や天候に左右されない室内競技として誕生しました。子どもからお年寄りまで、男女を問わずだれでも手軽に楽しめるスポーツです。(富永)

(1) 競技概要

フロッカーは、体育館等のフロアで行うカーリングで、木製のストーンを使用し、目標のストーンへいかに近づけるかを競うゲームです。

(2) 用具

① ターゲットストーン:1個

② フロッカー(赤/黄):各3個

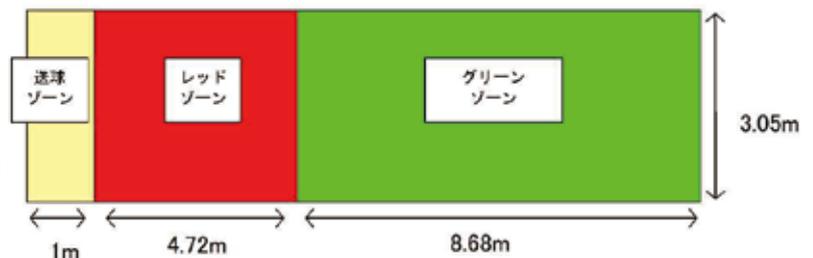
(3) 感染対策

① プレイヤー:プレー前に手指を消毒(または手袋着用)

② 用具:開始前・競技後にストーンの握り手を消毒

室内競技につき換気は会場に合わせて実施する

情 成	選手	審判	計	感染対策			
				除菌ポンプ	除菌シート	マスク使用	密接
	人	人	人	個	個	○×	○△×
シングルス	2	2	4	1	1	○	○
ダブルス	4	2	6	1	1	○	○
トリプルス	6	2	8	1	1	○	△
フォース	8	2	10	1	1	○	△



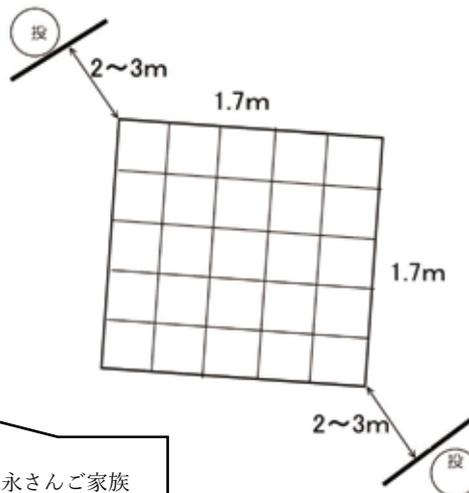
『いごてだま』

平成4年、柏原町（兵庫県）で考案された「囲碁ボール」のボールをお手玉に、スティックを投球に変え、より手軽に楽しめる競技です。（富永）

- (1) 競技概要
いごてだまは、5×5のマスがあるシートにお手玉を投げ入れ、入ったお手玉の数とお手玉の入ったマス目のビンゴを狙って競うゲームです。
- (2) 用具
 - ① お手玉：20個（各チーム10個）
 - ② シート：5×5のマス目を記載
- (3) 感染対策
 - ① プレイヤー：対戦前、対戦後に手指消毒（または手袋着用）
 - ② 用具：競技終了後にお手玉・シートを消毒

室内競技につき換気は会場に合わせて実施する

構成	選手 人	審判 人	計 人	感染対策			
				囲碁ボール 個	囲碁シート 個	マスク使用 ○×	密接 ○△×
3×3	6	2	8	1	1	○	○
4×4	8	2	10	1	1	○	△

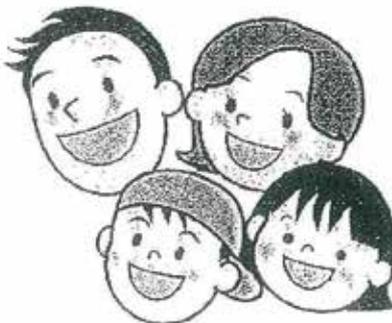


手作りです。♡
制作者：郡山ブロック スポーツ推進委員 森永さんご家族

ニュースポーツ用具無料貸出し

※ ご家族、お友達と、職場、地域のレクリエーションなどに、どうぞ活用してください。

どんな種目があるの？
遊び方は？



※ いろいろな質問、問い合わせなどは、気軽に職員までお尋ねください。

- ◎ニュースポーツ用具の予約
 - ・使用される日の約6ヶ月前から予約できます。
 - ・電話、窓口でも受付しています。
- ◎貸出期間
 - ・原則1～4日間です。

お問い合わせ先	
鹿児島アリーナ	☎099-285-2244
鹿児島市民体育館	☎099-261-5115
喜入総合体育館	☎099-345-2383
松元平野町体育館	☎099-278-5100
桜島総合体育館	☎099-293-2967
吉田文化体育センター	☎099-294-4477

※ 各体育館に保有しているニュースポーツ用具の種目・数が異なります。

コロナ禍の伊敷台小学校での感染対策



① 常時の感染対策

② コロナ感染症第5波による 感染対策

1 はじめに

令和2年度・令和3年度の2年間コロナ感染症対策を行ってきた。令和2年度の経験をふまえ、令和3年度も感染症対策に取り組んだが、職員全体で何度も話し合いをもち、子どもたちの安全確保に向けた取り組み案を試行錯誤した1年であった。大きく2つ（上記①②）の対策についてまとめることとする。

2 対策の実際

① 常時の対策

- (1) マスク着用・手洗いうがい励行・アルコール消毒（入室時・屋外から帰ってきた時・給食前など）
- (2) 給食グループを作らない
- (3) 3密の回避
 - ・始業式・終業式・全校朝会などの全体会をリモート実施に切り替える
 - ・水泳学習での更衣室の増設
 - ・1時間につき1クラスのみ授業実施（通常は2クラス合同あり）
 - ・歌唱学習の禁止
 - ・授業における話し合い活動やグループ活動を避ける。
- (4) 児童下校後の机・椅子・廊下等のアルコール消毒



- (1) 昨年度からおよそ2年間で、日常化してきている。ただ、低学年の子どもで、マスクを嫌がる子どもがいたり、運動会のかけっこ時にマスクをはずすことを嫌がる児童がいたりした。職員の共通理解として「全力疾走を伴う運動」「持久走」では、マスクを全員はずさせ、それ以外は基本的にマスク着用を促すようにした。
- (2) 子どもたちから、給食中は静かにしなければいけないという危機意識が感じられた。
- (3) 始業式・終業式・全校朝会などのリモート化については、慣れてきたように感じる。しかし、授業における話し合い活動ができなかったり、音楽の学習で歌唱学習が行えなかったりすることは、学習の妨げになり抵抗感が依然としてある。（滝野）
- (4) 廊下に出る児童を一週間ごとに交代するように公平性を保つための工夫も行った。

② コロナ感染症第5波による 感染対策

常時の対策を行いつつ以下のような対策を行った。

● 9月1日～10日（第1・2週）

(1) 1・2・3年→午前（3時間授業）登校、4・5・6年→午後（3時間授業）登校。

（それぞれ登校していない時間帯を在宅学習時間として課題を与えた。プリント・ドリル問題など）

(2) 3年生については、1クラス40人であったため、クラスの増設を行った。

(3) 登校時刻を、地域ごとにずらし、密を回避した。

(4) 全学級、密の回避のため、児童5名程度（1列）を廊下に配置し、授業を行った。

(5) はみがきは、水道場が密になるため、家庭に帰ってから行うようにした。

(6) 水道場に、ビニールのパーテーションを張り、水道場近くの学級との密の回避を行った。

● 9月13日～24日（第3・4週）

(7) 全学年、午前（4時間授業）登校。

(8) 密の回避を行うため、全学年1クラス増設を行った。

(9) オンライン授業のための準備・タブレットを家庭へ持ち帰り、学級単位でオンライン接続の確認をした。

(3)～(6)の対策は、引き続き実施。

● 9月27日～10月1日（第5週・10月第1週）

(10) 全学年、5時間授業。

(3)～(6)の対策は、引き続き実施



(6) 水道場のビニールによるパーテーションは、手作り感たっぷりのものとなったが、職員で力をあわせて、全水道場に設置を行った。

(9) オンライン授業に向けて、タブレットを家庭に持ち帰らせ、学級ごとに担任と子どもたち全員をオンラインでつなぐことを行った。低学年の学級では、全員が揃うことが難しかったようだ。

全体的に→「感染対策」を第一に「授業を進める」ことを念頭いれて、対策を工夫していった。学校として大きな流れ（午前と午後に分けての登校など）が決まってから、各学年部に分かれて、更に、在宅学習の課題を出したり、感染対策を行ったりなど工夫を加えていった。（滝野）

前文の抜粋です

スポーツは、
世界共通の人類の文化である

スポーツ基本法の前文は、この言葉から始まります。

●スポーツは、人と人、地域と地域との交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成し、地域社会の再生に寄与。心身の健康の保持増進にも重要な役割を果たし、健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠

スポーツ基本法は、競技としての**スポーツの価値**も高めつつ、日常的にスポーツに親しむ機会を増やして全ての人がスポーツを通して**健康で豊かな生活**を送ることができる社会を目指しています。

そしてスポーツ推進委員の活動は、まさにその健康で活力のある**社会を作る一端**を担っていると
いえます。（田中）

我々がこうして活動していること背景にはスポーツ基本法が深く関わっていることを知ることができ、自分の活動の意義について新たな視点から理解することができました。

このような貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。（田中）

スポーツ基本法を考えながらスポーツする人なんていませんよね（笑）

でも様々な活動をする中で、行き詰まりそうになった時に、きついなと感じたとき、この法律を作った人達の気持ちをちょっとだけ思い出すのも有りかなって思います。（宮原）

スポーツ基本法をご存じですか？

スポーツ基本法は平成23年に議員立法によって作成された法律で、国民の心身の健全な発達、明るく豊かな国民生活の形成、活力ある社会の実現及び国際社会の調和ある発展に寄与することを目的に作られました。

かつての東京オリンピックに向けて立法されたスポーツ振興法ができてから約60年。スポーツ基本法が立法されたのには、我が国にスポーツが広く国民に浸透し、スポーツを行う目的が多様化するとともに、地域におけるスポーツクラブの成長や、競技技術の向上、プロスポーツの発展、スポーツによる国際交流や貢献の活発化など、スポーツを巡る状況が大きく変化してきているという背景があります。

○ スポーツ基本法のねらい



スポーツ基本法では我が国のスポーツの発展を目指し、競技水準の向上と地域スポーツの推進を通して、国家戦略としてスポーツに関する施策を総合的・計画的に推進することを決めています。

○ 基本理念に新たに盛り込まれた要素

① 障害者スポーツの推進

障害者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるように配慮をする。



② スポーツ選手(プロスポーツ含む)の競技水準の向上

国際競技大会等において優秀な成績を収めることができるよう、各機関との連携を効果的に図る。



「体育指導委員」から「スポーツ推進委員」に名称が変更されたのもスポーツ基本法です！

スポーツをする人、見る人、支える人、全ての人々にスポーツを！

スポーツ基本法にはそんな願いが込められています。

『もっと SNS?・・・』

研究公開実行委員会を2回済ませた頃、鹿児島県に最初の『まん延防止等重点措置』が発令されました。活動はストップ状態が続き、発令が解除された第3回実行委員会でのこと、推進委員の中から「LINE グループを作ったら・・・」と意見が出ました。SNSの活用は考えてはいましたが、世代の壁か踏み出せずにいたのです。

使ってみると、時差無し一斉連絡やその正確性、時間を選ばず発信、リモート打合せ、データ送信など、今思えばLINE を使ってなければ、研究公開の作業は頓挫したでしょう。ネット社会は日々進化し変わらぬ24時間の中で、ゆとりという時間の隙間まで埋める時代です。コミュニケーションの形もむしろ変わるのが当たり前かも知れません。

鹿児島ユナイテッドの湯脇さんがおっしゃるように、前を向いて一歩踏み出せば、新しい方法や新しい感覚を発見できるし、またそこから更に前に進めることを実感しました。

それぞれの場面で引き継がれてきた方法や手順が突然通用しなくなった今こそ私達のスポーツマンシップを生かすときかも知れません。

今回は、伊敷ブロックのスポーツ推進委員とスポーツ少年団でまとめた研究公開ですが、この資料がコロナ禍における生涯スポーツの記録になると同時に、スポーツで鹿児島市の一端を支えるリーダーの方々に何か少しでも参考になれば幸いです。

